

JOURNAL OF JAPAN SOCIETY OF ENDMETRIOSIS

## 第42回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会報告

会長 大道 正英

このたび、皆様には第42回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会の開催に際しましては、多大なるご支援とご協力を賜り誠にありがとうございました。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、本学会初の試みとなるWeb配信形式にて開催いたしました。この新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下にもかかわらず、630名もの多数の皆様にご参加いただき、また企画に興味を持っていただいた方々に配信期間の延長のご要望をいただきましたことも、心より感謝申し上げます。これもひとえに座長・演者およびコーディネーターの方々のご尽力の賜物と重ねて御礼申し上げます。

Web開催にあたり至らぬ点もあり、ご迷惑をおかけしたと存じますが、何卒ご寛容いただければ幸甚でございます。

子宮内膜症は有経女性の約10%にみられ、原因不明の不妊症患者の約50%に子宮内膜症が存在するとも言われています。さらに、子宮内膜症により、卵巣癌を含め種々の疾患のリスクや周産期合併症が上昇することも分かってきました。しかしながら、それぞれの疾患の早期診断や不妊症も含め、その合併する疾患のmanagementに関してはいまだcontroversialな点多々あります。また、子宮内膜症は画像診断が非常に有用ですが、そのピットフォールもよく経験します。このように、子宮内膜症およびその関連疾患に関しましてはまだ未知の分野が多く、今後の解明が期待されます。本学術講演会ではその分野を中心にフォーカスを当てました。

理化学研究所予防医療・診断技術開発プログラム プログラムディレクターの林崎良英先生に招請講演を、Taiwan Endometriosis SocietyのPresidentのTzeng教授と京教授に特別講演を、万代教授・若槻教授・小谷先生に教育講演をしていただきました。2つのシンポジウム、3つのワークショップを含め、共催セミナーや産婦人科領域講習もしていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

子宮内膜症およびその関連疾患に関しましては、まだまだ未知の分野が多く、今後、解明していかないといけない点多々あることが確認できた学術講演会でもありました。

本学会の今後のさらなる発展を祈念して、学術講演会の報告とさせていただきます。誠にありがとうございました。